

新星日響

Japan Shinsei Symphony Orchestra

新星日響の

第9

埼玉第九合唱団第51回演奏会

プログラム

ベートーヴェン

L.v. Beethoven

序曲『レオノーレ』第3番

Overture "Leonore" No.3, Op.72b

休憩 intermission

交響曲第9番 二短調 “合唱”

Symphony No.9 in D minor, Op.125 "Choral"

指揮 佐渡 裕

Yutaka Sado, conductor

ソプラノ 佐藤ひさら

Hisara Sato, soprano

テノール 持木 弘

Hiroshi Mochiki, tenor

合唱指揮 浅子 元

Hajime Asako, chorus conductor

合唱ピアノ 田尻 桂

Kei Tajiri, chorus pianist

メゾソプラノ 森山京子

Kyoko Moriyama, mezzo-soprano

バリトン 牧野正人

Masato Makino, baritone

合唱 埼玉第九合唱団

Saitama Daiku Gasshohdan Chorus

管弦楽 新星日本交響楽団

Japan Shinsei Symphony Orchestra

1998年12月20日(日) 午後2時開演 大宮ソニックシティ大ホール

2:00p.m. Sunday 20. December 1998, Omiya Sonic City Hall

主催 (財)新星日本交響楽団

共催 埼玉第九合唱団

後援 (財)埼玉県産業文化センター



©吉村 純

●指揮 佐渡 裕

1961年京都生まれ。京都市立芸術大学卒業。87年のタングルウッド音楽祭でレナード・バーンスタイン、小澤征爾の各氏に師事。88年シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭でダビドフ特別賞を受賞し、バーンスタインのツアーに同行。89年プザンソン指揮者コンクール優勝。90年パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)の横浜公演で急病のバーンスタインに代わって指揮し、絶賛を浴びた。91～92年フランス国立ボルドー・アキテーヌ管、92～95年新日本フィル指揮者。93年よりフランスのコンセル・ラムルー管首席指揮者。これまでにアリオン音楽財団指揮者賞、藤堂賞、出光音楽賞、大阪府民芸術奨励賞、京都市芸術新人賞などを受賞。95年には第1回レナード・バーンスタイン・エルサレム国際指揮者コンクールで優勝し、「レナード・バーンスタイン桂冠指揮者」の称号を授与された。96年6月にはフランス演劇音楽批評家協会よりレヴェラシオン・ムジカル・ド・ラナー賞を受賞、若い音楽家や一般市民に対して精力的に取り組んでいる音楽教育活動の功績が称えられた。



●ソプラノ 佐藤ひさら

国立音楽大学卒業。同大学院修了。大平繁子、渡辺高之助、伊藤京子の諸氏に師事。1990年より文化庁在外研修員として1年間イタリアに留学。国立音楽大学大学院オペラ『フィガロの結婚』の伯爵夫人でオペラ・デビュー。その後、藤原歌劇団の88年ニューイヤー藤原オペラ・コンサート出演を経て、94年『蝶々夫人』のタイトルロールを歌い大成功を収めた。数々の日本オペラにも主役として出演、好評を博す。また、各オーケストラと『第9』、ヴェルディ『レクイエム』などで協演し、NHKニューイヤーオペラコンサートにも出演。97年4月にはアメリカ、パームビーチでのオペラ公演『蝶々夫人』でタイトルロールを歌い大喝采を浴びた。藤原歌劇団団員。



●メゾソプラノ 森山京子

国立音楽大学卒業。G・ヴィーギ、A・ベルトラミの両氏に師事。1993年秋より文化庁芸術家在外研修員として1年間ミラノに留学。藤原歌劇団公演の『椿姫』フローラ、『ドン・カルロ』アレンベルク伯爵夫人、『カヴァレリア・ルスティカーナ』ローラ役等で好評を得ている。95年にはイタリア、ドニゼッティ歌劇場でジーモン・マイアの『レクイエム』のメゾ・ソロを歌い、この演奏会はライブ録音された。94～96年の2シーズンにドイツのライブツィヒ歌劇場に招かれ、『カルメン』のメルセデスに客演。その他、ヴィヴァルディ『グローリア・ミサ』、モーツァルト『戴冠ミサ』などの宗教曲、マーラー『大地の歌』、各種コンサートにも出演。藤原歌劇団団員。



●テノール 持木 弘

東京芸術大学卒業。酒井弘、天野秋雄の両氏に師事。第20回日伊声楽コンクール入選。第53回日本音楽コンクール声楽部門入選。埼玉オペラ協会『夕鶴』の与ひょうでオペラ・デビュー。その後、藤原歌劇団公演の『カヴァレリア・ルスティカーナ』のトゥリッドゥで高い評価を得た。また、『ルチア』アルトゥーロ、『椿姫』ガストン、『ドン・カルロ』のタイトルロール、『道化師』ペッペ等に出演。1993年の『ルチア』ではエドガルドで好評を博した。埼玉オペラ協会でも主軸として活躍し、『こうもり』等の作品ほか、『秩父晚鐘』の惣吉など創作オペラにも意欲的に取り組んでいる。『第9』をはじめ数多くのコンサートに出演し好評を得ている。第18回ジロー・オペラ賞受賞。藤原歌劇団団員。



●バリトン 牧野正人

国立音楽大学卒業。同音楽院修了。荏智世恵、波多野靖祐、中山悌一、疋田生次郎の諸氏に師事。1988～89年ミラノに留学、発声・演奏法をM・カルポーネ、R・エリー、舞台表現法をM・レアーレの諸氏に師事。国立音楽大学オペラ『フィガロの結婚』伯爵役でオペラ・デビュー。藤原歌劇団公演の『ドン・ジョヴァンニ』のタイトルロールで絶賛を博す。以来『椿姫』のジェルモン、『セヴィリアの理髪師』のフィガロ、『ラ・ボエーム』のマルチェット、『シモン・ボッカネグラ』ではバオロを歌い、97年2月には『マクベス』のタイトルロールに出演した。98年1月新国立劇場公演『アイダ』のアモナスロに出演し好評を博す。また、『第9』やオラトリオ等の宗教曲、『カルミナ・ブラーナ』のソリストとしても活躍している。第23回ジロー・オペラ賞受賞。藤原歌劇団団員。

●合唱指揮 浅子 元

東邦音楽大学音楽学部音楽学科ピアノ専攻卒業。読売新聞社主催第53回新人演奏会出演。埼玉会館主催第5回新人演奏会オーディション合格。ピアノ・ソロ、声楽・器楽の伴奏、アンサンブル等の各種コンサートに出演するほか、公開レッスンの講師をつとめるなど幅広く活躍し、好評を得ている。平成10年度文部省主催新任者研修(洋上研修)講師。第9の指導は学生時代から行っており、緻密でしかもスケールの大きい曲作りには定評がある。東邦音楽大学専任講師。埼玉新演奏家連盟会員。

●合唱 埼玉第九合唱団

ベートーヴェン生誕200年を契機として、3年後の1973年、埼玉県で初の「第9」を演奏することを目的に結成された混声合唱団。年末には新星日本交響楽団との共催で「第9」を、夏季には合唱団単独主催による演奏会を開き、大曲といわれる宗教曲を中心に古典から現代までの様々な合唱曲に意欲的に取り組んでいる。86年、埼玉合唱コンクールで全部門総合1位。94年プリズベン市で開催されたワラナ祭に出演。今年7月、創立25周年記念として、委嘱曲オーケストラと混声合唱のためのカンタータ「さいたまさちあり」(作曲 鈴木憲夫、作詩 宮澤章二)を演奏した。

埼玉第九合唱団団員名簿

ソプラノ	古谷野道子	林 昌枝	阿部トシ	田保京子	吉見ミチ子	中荃幸正	草谷六雄
青木紀子	榊 明子	原田レイ子	池田晃子	築紫マエ子	来丸寿子	中村秀樹	栗山英雄
赤田孝子	佐藤高子	堀江君江	石田浩子	長岡和子	和田順子	林 昭宏	島原信行
秋谷由美子	渋谷恵美子	幕田多賀子	石田美代子	中川淳子	和田智子	三村隆男	志村忠雄
浅利信子	清水成子	宮石カヨ子	猪又豊子	中島 郁		三宅朝昭	瀬島祐二
芦田靖子	白木百合子	宮崎久子	岩崎美智子	中島一恵	テナー	村瀬光司	高尾英二
新井美代子	鈴木淳子	村上綾子	宇佐美靖子	中野と志子	赤坂 浩	山影哲郎	武内久明
今泉祥子	鈴木純江	望月和江	大井 睦	中村 姚	朝日 明	横田正利	竹越 功
鶴沼美津子	鈴木洋子	茂木秀子	大沢英子	名倉邦子	飯塚 裕	吉川 敦	刀根洋一
遠藤綾子	須藤 知	矢萩路子	大槻慶子	新實榮子	生駒 孝	吉田俊之	西川裕二
大串清子	五月女昌子	藪内あゆみ	小笠原記公子	西岡友子	大島紘二	若林祥文	原 伸一
大崎真由美	滝上貴美代	山形スミ	岡野あい子	西川富紀子	岡野孝之		牧原 功
大島君江	田口静子	山田理恵	小野寺鈴江	林 富士子	鹿島斗鬼男	バス	馬淵 襄
大平恵美子	塚原宏子	山戸敏子	小柳洋子	細村雅子	加藤省吾	青柳輝和	丸山文夫
小河原悦子	土田良子	山本 絹	草谷智意子	三浦恵美子	駒形一夫	石川秀雄	武藤武男
小沢愛子	出口智世香	吉田純子	久保井セイ子	緑川ともえ	斎藤正人	梅木英一郎	森久保泰弘
小武内英子	友弘富美江	吉田富子	小池栄子	目黒靖子	坂本宗男	榎本法夫	山崎正巳
片岡恭子	板内精子	吉田美和	近藤佐恵子	森 和代	島野光男	海老原英夫	脇坂純一
加藤富士子	中村さち子	吉田友見	佐々木恵子	八木橋弘子	新祖 章	大崎裕久	渡 遼 清
北川玲子	縄田庸子	和田真理子	清水千砂	矢島和子	須藤智房	大島誠一郎	
岸 照子	葩島麻里	渡辺節子	菅沼みどり	山田智子	高橋 浩	影山智章	
木村佐和	白田香澄		杉山典子	横田百合子	千里久文男	可知利道	
熊井戸正子	長谷部芳子	アルト	須藤裕子	吉田正代	徳安清貞	川原善郎	
古賀とも子	秦 英子	秋山希子	高橋素予子	吉野久江	戸倉敬介	菊地 守	



leonard bernstein
KADDISH
CHORUS & ORCHESTRA
ERATO

WARNER CLASSICS JAPAN

佐渡裕 / フランス放送フィルのCD、

絶賛発売中!

エラート・デビュー・アルバムも絶賛発売中!

フランス音楽の祭典
CD ■ WPCS-6320
税込¥1,980
※この番号と価格は在庫限りとなります。その後はCD ■ WPCS-6460 税込¥2,520 となります

株式会社 ワナーミュージック・ジャパン



父レナード・バーンスタインにとって作曲とは、彼の創造主と対話するための最も直接的な手段でした。その全作品中で、交響曲第3番(カディッシュ)は最も個人的な作品で、ナレーションには父の魂が赤裸々に現れています。マエストロ佐渡は、父から最後に指揮を学ぶことの出来た幸運な人たちの一人です。師と暮らした人に対する贈り物として、この録音以上のものを思い浮かべることは出来ません。

—————1998年9月 ジェイミー・バーンスタイン・トーマス(寄稿より抜粋)

最新盤

バーンスタイン カディッシュ

バーンスタイン: 交響曲 第3番(カディッシュ)、チチェスター詩篇
CD ■ WPCS-6600 税込¥2,520 11月26日 日本先行発売

佐渡裕が振る“元気の出る”第九

今年も〈第9〉の季節がやってきた。これほど集中的に一つの交響曲が、それも毎年演奏されるという現象は日本の師走をおいて他にあるまい。ドイツの某大物指揮者が一生に振った第9の回数が、日本の新人指揮者が二年間で振る回数より少なかったという冗談みたいな実話もある。これはもう名物とか風物詩を通り越して「日本の新しい伝統」という次元に達した、と言ってもいいほどの出来事だ。

そもそも第9の日本初演は第一次大戦後、徳島県の板東ドイツ俘虜収容所で結成された楽団が友好の証として開いた演奏会に遡る。やがて現在のように第9のコンサートが盛んに催されるようになった背景には「国内の楽団がなけなしの給料を補うため、智者が餅代稼ぎとしてひねり出した企画」があるとする説が有力。とはいえ曲自体の持つ力、特に〈歓喜の主題〉と称されるあの親しみやすいメロディーの魅力がなければ、この行事は恐らく定着しなかったことだろう。

指揮者の佐渡裕は1961年京都市生まれ。師走には第9、という“伝統”をごく当たり前のこととして育ってきた世代である。彼は言う。「僕の中では第9って、

最も庶民的な音楽なんです。鼻歌でも簡単に歌えるし（笑）。〈歓喜〉というより〈よろこび〉の第9。ドイツ語の音の響きやシラーの詩から感じたものを音楽で表現することは勿論、『全ての人が兄弟になる』という〈よろこびの歌〉を媒体として、会場にいるみなさんに“一つになる”尊さ、一体感を感じてもらえれば。あらゆる民衆のための、よろこびの第9。実に明快そのものの解釈ではないか。

そういえば〈歓喜に寄す〉はフランス革命当時、民衆や学生たちの間で流行歌のように口ずさまれていた。ベートーヴェンはこの詩を導入するため、第四楽章でバリトン・ソロが歌い始める一節を自ら作詞して——今ふうに直せば「みんな、こんな音じゃないだろ。もっと明るくて気持ち良くなれる歌を一緒に歌おうよ！」てな語感になる——加えている。今宵演奏会場に集った老若男女が〈よろこびの歌〉のもとにひととき、心を通わせる……そんな〈第9〉なら、世界に誇るべき立派な“伝統行事”だ。そして佐渡ならきっと、この難しい作業を可能にしてくれるに違いない。

L.v. ベートーヴェン(1770~1827)

序曲『レオノーレ』第3番 Op.72b

ベートーヴェンが生涯に一つだけ完成させたオペラ、それが〈フィデリオ〉である。ただしその道のりは決して平坦ではなく、彼は当初〈レオノーレ〉というタイトルだったこの歌劇の世評が芳しくなかったことから、大きく二度の書き直しを余儀なくされている。だがその所産として、決定稿となった〈フィデリオ〉序曲のほかに〈レオノーレ〉という名前を持つ序曲が計

3曲残されることになった。この「第3番」は1806年に第2版が初演されたときに序曲として演奏されたもので、生氣あふれる曲想や舞台裏からのトランペットなどの醸し出す効果が人気を博し、現在では第二幕の前などに演奏されるほか、むしろ単独でオーケストラ・コンサートの場に取り上げられる機会が多くなっている。

交響曲第9番 二短調 Op.125 “合唱”

交響曲というジャンルにテキストつきの声楽を導入したことや、全曲の演奏時間が一時間をゆうに超えるというスケールの大きさを音楽史上でも記念碑的な位置を占める作品。1822年から24年にかけて作曲され、ウィーンのケルントナーア劇場で初演された。当時のプロイセン王フリードリヒ・ウィルヘルム三世に献呈されている。ベートーヴェン自身の指揮による初演は大成功だったが、既に聴覚を失っていた彼には嵐のような拍手が聞こえず、アルトの独唱者が袖を引っ張って聴衆の熱狂ぶりを知らせたというエピソードが伝わっている。

曲は四つの楽章からなり、終楽章にはフリードリ

ヒ・シラーの頌歌〈歓喜に寄す〉からの抜粋が歌詞として使われている。それぞれの内容は苦悩、運命といった印象を抱かせる暗く荘重な混沌状態に始まる第一楽章（アレグロ・ノン・トロッポ、ウン・ポコ・マエストロ＝速すぎず、やや荘厳に）、激烈な嵐の襲来を思わせるスケルツォの第二楽章（モルト・ヴィヴァーチェ＝きわめて活発に）、天上の楽園そのものといったイメージの第三楽章（アダージョ・モルト・エ・カンタービレ＝非常にゆっくりと、そして歌うように）を経て、ヒューマニズムを高らかに謳い上げて解放の頂点を形成するフィナーレ（プレスト＝急速に）に至る。

〈歌詞対訳〉

*O Freunde, nicht diese Töne!
Sondern laßt uns angenehmerc anstimmen,
und freudenvollere.*

(Beethoven)

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum.
Deine Zauber binden wieder,
was die Mode streng getheilt,
alle Menschen werden Brüder,
wo dein sanfter Flügel weilt.

Wem der große Wurf gelungen,
eines Freundes Freund zu sein,
wer ein holdes Weib errungen,
mische seinen Jubel ein!
Ja, wer auch nur eine Seele
sein nennt auf dem Erdenrund!
Und wer's nie gekonnt, der stehle
weinend sich aus diesem Bund!

Freude trinken alle Wesen
an den Brüsten der Natur;
alle Guten, alle Bösen
folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
einen Freund, geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
und der Cherub steht vor Gott!

Froh, wie seine Sonnen fliegen
durch des Himmels prächt'gen Plan,
laufet, Brüder, eure Bahn,
freudig, wie ein Held zum Siegen!

Seid umschlungen, Millionen!
Diesen Kuß der ganzen Welt!
Brüder, überm Sternenzelt
muß ein lieber Vater wohnen!
Ihr stürzt nieder, Millionen?
Ahnest du den Schöpfer, Welt?
Such ihn überm Sternenzelt,
über Sternen muß er wohnen!

(Friedrich Schiller (1759-1805) Aus "Ode an die Freude")

おお友よ この音ではない
もっと快く 喜びに満ちた音楽を歌い始めよう

(以上、ベートーヴェン)

喜びよ 神々の美しき火花よ
幸福の園の娘よ
私たちは情熱の炎に満たされ
天の乙女よ あなたの聖なる国に歩み入る
時の世の風潮に厳しく引き裂かれたものを
あなたの不思議な力が再び結びつけ
すべての人々は兄弟となる
あなたの柔らかな翼が休らうところで

ひとりの友から友と呼ばれる
素晴らしい資格を得た者や
ひとりの優しい妻を迎えた者は
歓喜の声あげて 仲間に加われ!
もちろん たとえたったひとつの魂でも
それをこの地上で自分のものと呼べる者も!
しかし それがどうしてもかなわなかった者は
泣きながら この輪よりひそかに立ち去るがよい!

生きとし生けるものはすべて
喜びを自然の乳房から飲み
すべての善きものも すべての悪きものも
自然がつけた薔薇の足跡をたどる
自然は私たちに くちづけとぶどう酒と
死を賭けた試練を越えた友を与えてくれた
快樂は虫けらにも与えられ
智天使ケルビムは神の御前に立つ

朗らかに そうだ 星々が
大空の壮麗なる広野を渡っていくように
進め 兄弟たちよ 自分の道を
胸躍らせ そうだ 勝利に向かう勇士のように

いだきあえ 幾百万の人々よ!
このくちづけを全世界に!
兄弟たちよ この星空の上に
親愛なる父がおられるはずだ!
ひれ伏すか 幾百万の人々よ?
創造主の存在を感じるか 世界よ?
創造主を求めよ この星空の上に
星々のかなたに その方はおられるはずだ

(シラー「歓喜に寄せる頌詞」より)